

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 香川県グリーン農業コンソーシアム
都道府県 香川県
対象地域 高松市
対象品目 イチゴ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

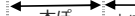
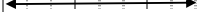
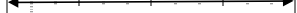
本県のイチゴ栽培の多くは高設養液栽培であり、肥料の利用効率とは耕栽培に比べて高いが、培地量が少なく、根傷みを回避するために給液量（培養液供給量）が多くなりやすい。しかし、過剰な給液は、ほ場外への肥料成分流出による環境負荷や肥料コスト増につながる恐れがある。一方、イチゴの病害のうち、「うどんこ病」は、わずかでも果実に発生すると商品価値が損なわれる重要病害である。発生後に薬剤散布を行っても、完全に発生を止めることが困難であるため、定期的な薬剤散布が求められ、労働負担と多大なコストが強いられる。こうした状況を踏まえ、実証で得た養液（給液、排液）測定による適正な養液管理方法及び微生物資材のダクト内投入による「うどんこ病」の防除体系を当該地域で実践し、イチゴの生産力向上と持続性の両立を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名	←→					○定植		収穫 ～ 6 ／ 中 旬	←→					
				本ぼ 太陽熱消毒		本ぼ 耕うん	10/中旬～6月上旬 ミツバチ放飼、摘葉、摘芽、摘花							
技術名	←→					←→	←→							
	○養液管理マニュアルに応じた一律的な給排液濃度管理 ○地域防除暦を準拠した農薬散布													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名						○定植								
				本ぼ 太陽熱消毒		本ぼ 耕うん	10/中旬～6月上旬 ミツバチ放飼、摘葉、摘芽、摘花							
技術名														
	○排液量と排液ECの測定に基づいた給液量・給液EC管理													
技術名													対象病害はうどんこ病	
	地域防除暦農薬散						地域防除暦農薬散							
														
	微生物資材ダクト内投入						微生物資材ダクト内投入							
	○地域防除暦を準拠した農薬散布（9月中旬～11月。4月以降は必要に応じて散布） ○微生物資材のダクト内投入（12月上旬～6月中旬）													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	8.7	▶ 8.7	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.4	▶ 1.0	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.4	▶ 1.0	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.4	▶ 1.0	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要
〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	養液管理マニュアルに応じた一律的な給排水濃度管理	イチゴ高設栽培における排水率を考慮した給・排水の E C 管理	化学肥料の使用量低減
環境 省力	地域防除暦を準拠した農薬散布	微生物資材のダクト内投入による防除体系	化学農薬の使用回数の削減 病害虫防除作業時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量の低減（％）	100	▶ 93	10月から2月までの硝酸態窒素の施用量を削減

実証では、「プランテクト®」による感染予測と微生物資材のダクト内投入技術を組み合わせて化学農薬の散布回数の削減を行っていたが、令和8年7月に「プランテクト®」サービスが終了することとなり、実証で得た削減効果が確保できない懸念があるため、化学農薬の使用回数の削減に係る指標は設定しないこととした。

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

事業で実証した技術について、令和8年度から巡回指導及び栽培講習会等を通じて、当該地区の若手生産者を中心に普及を図る。

関係者の役割

関係者名	香川県グリーン農業コンソーシアム			
	香川県農業経営課	東讃農業改良普及センター	香川県農業試験場	JA香川県営農部
役割	技術指導及び環境にやさしい農業の推進に係る普及啓発や情報発信。	技術指導及び事業実施地域でのグリーンな栽培体系の普及。	技術指導及び事業実施地域でのグリーンな栽培体系の普及。	技術指導及び事業実施地域でのグリーンな栽培体系の普及。